高千穂化学創業者、江上正会長「百寿を祝う会」開催

左が江上会長、
ワク内は江上真紀社長

高千穂化学工業、高千穂商事の創業者である江上正（まさし）会長の「百寿を祝う会」が10月18日、江上会長の母校である東京工業大学の東工大倉前会館（東京都目黒区大岡山）で開催され、江上会長に所縁のある国内及び、米国、香港、韓国など海外からの関係者、両社の取引先などから来賓百余名が参集した。

江上会長は大正3（1914）年1月10日、福岡県久留米市生まれで、来年満百歳を迎える。昭和14（1939）年に東京工業大学応用化学科を卒業し、卒業後、昭和電線電纜研究所に入所。昭和15～20年の間、陸軍航空兵科に応招。技術将校としてロケット燃料の研究に携わった。同21年には保土ヶ谷化学の研究所に入所、東北大学に派遣され、そこで特殊ガス（高純度ガス）の世界に触れたことが契機となり、同23年に品川区に会社を設立、高純度アルゴンガスの開発に取り組み、翌年、高純度アルゴンガスの開発に成功、製品化して販売を開始した。同25年、渋谷区下通り（現広尾）に高千穂商事を設立。同33年に高千穂化学工業を設立した。

式典では、冒頭の挨拶で江上会長が「皆さん、今日は沢山来ていただき、ありがとうございます」と述べ、江上真紀社長が、「父である会長から経営自体をあまり教えてもらったことはないが、技術の更に先を見ることを実践で学んだ。当社は創業64周年を迎えるが、会長の発明考案の精神を受け継ぎ、創業100周年を目指して、新製品を生み出しながら着実な事業の発展を続けていく」と語った。その後、記念講演として、東京工業大学像情報工学研究所の半那純一教授による「半導体ガスの化学反応性を活用したSi薄膜の堆積技術」、Voltaix創業者のジョン・ドゥ・ヌフビル（Mr. John P. de Neufville）氏の「特定無機分子の歴史と高千穂・Voltaixのパートナーシップ」、江上会長の東工大のクラスメートであった故荒木峻教授の教え子であり、VOC先駆者である保母敏行東京都立大学名誉教授による「標準ガス発生の古きを訪ねて」などが行われた。

また、来賓として堀場エステックの小石秀之副社長、大陽日酸の田口博会長、スコット・スペシャリティ・ガシス（Scott Speciality Gases）社の元会長のフレデリック・マーツジュニア（J. Frederick Merz. Jr.）氏、一般財団法人化学物質評価研究機構東京事業所化学標準部の上原伸二技術第一課長、一般財団法人日本自動車研究所（JARI）エネルギー・環境研究部の秋山賢一主席研究員・研究主管が祝辞を述べた。

出典：ガスレビューNo.780
（2013年11月15日号）